

(様式第 10)

28 昭大病発第 10 号
平成 28 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 昭和大学
理事長 小口 勝司 (印)

昭和大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒142-8666 東京都品川区旗の台1丁目5番8号
氏 名	学校法人 昭和大学 理事長 小口 勝司

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

昭和大学病院

3 所在の場所

〒142-8666 東京都品川区旗の台1丁目5番8号 電話(03) 3784-8000

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 ① 呼吸器内科 ② アレルギー科 ③ 消化器内科 ④ 循環器内科 ⑤ リウマチ科 ⑥ 糖尿病内科 ⑦ 代謝内科 ⑧ 内分泌内科 ⑨ 血液内科 ⑩ 腎臓内科 ⑪ 腫瘍内科 ⑫ 感染症内科 ⑬ 神経内科 ⑭ 緩和ケア内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 肛門外科 ② 消化器外科 ③ 乳腺外科 ④ 内分泌外科 ⑤ 心臓血管外科	
⑥ 呼吸器外科 ⑦ 気管・食道外科 ⑧ 小児外科 ⑨ 形成外科 ⑩ 美容外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科 ② 小児科 ③ 整形外科 ④ 脳神経外科 ⑤ 皮膚科 ⑥ 泌尿器科 ⑦ 産婦人科
⑧ 産科 ⑨ 婦人科 ⑩ 眼科 ⑪ 耳鼻咽喉科 ⑫ 放射線科 ⑬ 放射線診断科
⑭ 放射線治療科 ⑮ 麻酔科 ⑯ 救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

① リハビリテーション科 ② 性病科 ③ 臨床検査科 ④ 病理診断科
⑤ 歯科口腔外科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	815床	815床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	480人	456人	571.2人	看 護 補 助 者	9人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	人
歯 科 医 師	6人	人	6人	理 学 療 法 士	15人	臨 床 検 査 技 師	54人
薬 剤 師	70人	人	70人	作 業 療 法 士	9人	検 査 衛 生 検 査 技 師	人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	人	そ の 他	人
助 産 師	50人	人	50人	義 肢 装 具 士	人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	2人
看 護 師	910人	8人	917.7人	臨 床 工 学 士	20人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	5人
准 看 護 師	人	人	人	栄 養 士	人	そ の 他 の 技 術 員	13人
歯 科 衛 生 士	2人	人	2人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	104人
管 理 栄 養 士	5人	人	5人	診 療 放 射 線 技 師	55人	そ の 他 の 職 員	22人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年9月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	39人	眼科専門医	1人
外科専門医	40人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	1人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	28人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	1人	整形外科専門医	26人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	29人	救急科専門医	4人
		合 計	239人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (板橋 家頭夫) 任命年月日 平成 28年 4月 1日

平成20年4月より医療安全管理対策委員会の委員として毎月出席し必要に応じ発言している。
 平成28年4月より医療安全管理対策委員会の委員長として委員会全体を取りまとめている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	653.8人	0人	653.8人
1日当たり平均外来患者数	1429.1人	24.0人	1453.1人
1日当たり平均調剤数			5591.4剤
必要医師数			153.2人
必要歯科医師数			2.0人
必要薬剤師数			69.9人
必要(准)看護師数			374.5人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
集中治療室	605.3m ²	鉄筋コンクリート	病床数	ICU 14床、CCU 5床		心電計	(有)・無
				救急ICU15床、救急CCU5床			
			人工呼吸装置	(有)・無		心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無		ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 122.95m ² [移動式の場合] 台数 4台		病床数 3床				
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 26.9m ² [共用室の場合] 共用する室名						
化学検査室	321.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動生化学検査装置 (BM6070)				
細菌検査室	103.6m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査装置 (BACTEC FX)				
病理検査室	91.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動病理装置 (VIP-6)				
病理解剖室	97.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、冷蔵庫 光触媒環境浄化装置 (ssc-75hi-Y)				
研究室	20243.31m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡室、動物実験室等				
講義室	5339.77m ²	鉄筋コンクリート	室数 16 室	収容定員 2593 人			
図書室	1525 m ²	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 350,000冊程度			

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	70.6%	逆紹介率	53.5%
算出根拠	A：紹介患者の数	17,818人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	16,328人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3,708人	
	D：初診の患者の数	30,507人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注) ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経頸静脈内門脈大循環短絡術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 経内頸静脈的にカテーテルを肝静脈まで進め、X線透視下または超音波ガイド下に肝静脈より肝実質を介して門脈を穿刺します。その後、穿刺孔を拡張することにより形成した門脈大循環短絡路に金属ステントを留置します。これにより、持続的に門脈圧の減圧ができ、諸症状の改善が期待できます。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症		56	ベーチェット病	45人
2	筋萎縮性側索硬化症		57	特発性拡張型心筋症	9人
3	脊髄性筋萎縮症	2人	58	肥大型心筋症	8人
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺		60	再生不良性貧血	31人
6	パーキンソン病	30人	61	自己免疫性溶血性貧血	9人
7	大脳皮質基底核変性症		62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1人
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	66人
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	2人
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	7人
11	重症筋無力症	13人	66	IgA腎症	6人
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	5人
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	14人	68	黄色靱帯骨化症	4人
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	3人	69	後縦靱帯骨化症	14人
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	
16	クドウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	22人
17	多系統萎縮症	2人	72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	4人	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	
21	ミトコンドリア病		76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	8人	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス		83	アジソン病	3人
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	23人
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	3人
31	ペスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	1人
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	1人
34	神経線維腫症	1人	89	リンパ脈管筋腫症	
35	天疱瘡	1人	90	網膜色素変性症	1人
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1人	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	42人
39	中毒性表皮壊死症	1人	94	原発性硬化性胆管炎	1人
40	高安動脈炎	1人	95	自己免疫性肝炎	27人
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	82人
42	結節性多発動脈炎	26人	97	潰瘍性大腸炎	242人
43	顕微鏡的多発血管炎	27人	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	19人	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6人	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	17人	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャー病	4人	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	228人	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	70人	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	11人	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	39人	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	64人	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	7人	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	1人	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	161		家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	162		類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	
113	筋ジストロフィー	163		特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164		眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	165		肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	166		弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	167		マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤	168		エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群	169		メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	170		オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症	171		ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症	172		低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173		VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174		那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175		ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群	176		コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	177		有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178		モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	179		ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	180		ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病	181		クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺	182		アペール症候群	
133	メビウス症候群	183		ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184		アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	185		コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症	186		ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成	187		歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	188		多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症	189		無脾症候群	
140	ドラベ症候群	190		鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191		ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん	192		コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193		プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	194		ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	195		ヌーナン症候群	
146	大田原症候群	196		ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症	197		1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198		4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199		5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群	200		第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	201		アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群	202		スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	203		22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204		エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群	205		脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	206		脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	207		総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	208		修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	209		完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	210		単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群	267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	8人 268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1人
222	一次性ネフローゼ症候群	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	274	骨形成不全症	1人
227	オスラー病	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型	289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	
244	メープルシロップ尿症	292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症	293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症	294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症	295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症	296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型	297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型	298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症	299	嚢胞性線維症	1人
252	リジン尿性蛋白不耐症	300	IgG4関連疾患	1人
253	先天性葉酸吸収不全	301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症	302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病	304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病	305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	306	好酸球性副鼻腔炎	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

基本診療料に係る施設基準

4	歯科外来診療環境体制加算
5	特定機能病院入院基本料（7対1）
3	超急性期脳卒中加算
4	診療録管理体制加算2
4の2	医師事務作業補助体制加算1〔5.0対1〕
4の3	急性期看護補助体制加算（2.5対1）
4の4	看護職員夜間配置加算（1.2対1配置加算1）
9	療養環境加算
10	重症者等療養環境特別加算
12の3	無菌治療室管理加算1・2
14	緩和ケア診療加算
20	医療安全対策加算1
21	感染防止対策加算1
21の2	患者サポート体制充実加算
22	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
22の2	ハイリスク妊婦管理加算
23	ハイリスク分娩管理加算
26	呼吸ケアチーム加算
26の3	病棟薬剤業務実施加算
26の4	データ提出加算2
26の5	退院支援加算2
第1	救命救急入院料1
2	特定集中治療室管理料3（小児加算）
3	ハイケアユニット入院医療管理料1
6	総合周産期待定集中治療室管理料1・2
7	新生児治療回復室入院医療管理料
10	小児入院医療管理料1

特掲診療料に係る施設基準

1	ウイルス疾患指導料
2	高度難聴指導管理料
4	糖尿病合併症管理料
4の2	がん性疼痛緩和指導管理料
4の3	がん患者指導管理料1・2・3
4の4	外来緩和ケア管理料
4の5	移植後患者指導管理料（臓器移植後）
4の6	糖尿病透析予防指導管理料
6	地域連携小児夜間・休日診療料2
6の3	地域連携夜間・休日診療料
6の4	院内トリアージ実施料
6の7	外来放射線照射診療料
7	ニコチン依存症管理料
11の2	がん治療連携計画策定料
11の5	肝炎インターフェロン治療計画料
12	薬剤管理指導料
12の2	医療機器安全管理料1
12の2	医療機器安全管理料2
13	歯科治療総合医療管理料
16の6	持続血糖測定器加算
8の1の2	遺伝学的検査
18の2	H P V核酸検出及びH P V核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
19	検体検査管理加算（I）
19の2	検体検査管理加算（II）
22	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
22の3	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
22の4	胎児心エコー法
22の5	ヘッドアップディスプレイ試験
26の2	神経学的検査
27	補聴器適合検査
29	小児食物アレルギー負荷検査
29の3	センチネルリンパ節生検（片側）
30	画像診断管理加算1
30	画像診断管理加算2
32	遠隔画像診断
34	CT撮影及びMRI撮影
35	冠動脈C T撮影加算
35の2	外傷全身C T加算
36	心臓MRI撮影加算
6の1の2	乳房MRI撮影加算
36の2	抗悪性腫瘍処方管理加算
37	外来化学療法加算1
37の2	無菌製剤処理料
38	心大血管疾患等IICリハビリテーション料（I）
40の2	脳血管疾患等IICリハビリテーション料（II）
42	運動器IICリハビリテーション料（I）
44	呼吸器IICリハビリテーション料（I）
47の2	がん患者リハビリテーション料
57	イソルの局所注入（甲状腺に対するもの）
57	イソルの局所注入（副甲状腺に対するもの）
57の2	透析液水質確保加算2
57の8	皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
57の9	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
57の10	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
60	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
61	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
61の2	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）
61の3	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）
61の5	乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
61の9	乳腺悪性腫瘍手術（乳がん乳頭腫瘍切除術（腋窩リンパ節転移検出を伴うもの）及び乳がん乳頭腫瘍切除術（腋窩リンパ節転移検出を伴うもの））
61の6	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
63	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
63の3	経カテーテル大動脈弁置換術（旧名称：経皮的動脈弁置換術）
63の5	磁気ナビゲーション加算
64	経皮的中隔心筋焼灼術
65	ベ-ス-カ移植術及びベ-ス-カ交換術
66	両心室ベ-ス-カ移植術及び両心室ベ-ス-カ交換術
67	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
67の2	両室ベ-シング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベ-シング機能付き植込型除細動器交換術
68	大動脈バルーンポンプ法（IABP法）
72の4	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
72の5	腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
72の7	腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
72の9	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
73	体外衝撃波胆石破砕術
73の2	腹腔鏡下肝切除術
74	生体部分肝移植術
75の2	体外衝撃波膵石破砕術
75の3	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
76の2	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
76の3	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
77	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術

77の2:	腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
77の3:	腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
77の4:	同種死体腎移植術
77の5:	生体腎移植術
77の6:	腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
77の8:	腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
77の11:	人工尿道括約筋植込・置換術
78の2:	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
80の2の2:	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）（旧名称：内視鏡手術用支援機器加算）
80の2の3:	腹腔鏡下仙骨固定術
78の3:	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
78の5:	胎児胸腔・羊水腔シャント術
79の3:	胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
80:	輸血管理料Ⅰ
80:	輸血適正使用加算
80の3:	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
80の5:	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
81:	麻酔管理料（Ⅰ）
81の2:	麻酔管理料（Ⅱ）
82:	放射線治療専任加算
82の2:	外来放射線治療加算
83:	高エネルギー放射線治療
83の2:	1回線量増加加算
83の3:	強度変調放射線治療（IMRT）
83の4:	画像誘導放射線治療加算（IGRT）
83の5:	体外照射呼吸性移動対策加算
84:	定位放射線治療
84の2:	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
84の2の5:	画像誘導密封小線源治療加算
84の3:	保険医療機関間の連携による病理診断
84の5:	病理診断管理加算2
85:	クラウン・ブリッジ維持管理料

H28. 10. 1

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトの時間認知機構の解明: 健忘症例からの検討	河村 満	神経内科	10,900,000	補委 文部科学省
高速AFM(原子間力顕微鏡)を用いたアルツハイマー病の病因因子Aβ凝集機構の解明	小野 賢二郎	神経内科	1,200,000	補委 文部科学省
認知症症状に潜む時間要素の解明-時間認知の神経心理学の視点から-	四郎丸 あずさ	神経内科	700,000	補委 文部科学省
非侵襲光学的血糖計測法(パルス・グルコメトリ)の実用化のための先駆的開発研究	山越 憲一	整形外科	7,400,000	補委 文部科学省
脊髄損傷時における移植骨髄幹細胞と脊髄組織の相互作用の解明	平泉 裕	整形外科	1,000,000	補委 文部科学省
大腸細菌状病変における内視鏡的・分子生物学的診断ツールの開発	小西 一男	消化器内科	900,000	補委 文部科学省
B細胞からみたB型肝炎ワクチンの限界と可能性	土肥 弘義	消化器内科	800,000	補委 文部科学省
治験の実施に関する研究[エプレレノン]	小林 洋一	循環器内科	385,000	補委 日本医療研究開発機構
致死性心血管疾患を予防する食事・栄養素の探索研究	木庭 新治	循環器内科	900,000	補委 文部科学省
サルコペニア合併の高齢慢性心不全に対する心臓リハビリテーションとASVの併用効果	安達 太郎	循環器内科	2,700,000	補委 文部科学省
心血管系を支配する交感神経の抑制性シナプス後電位の性質と役割の解明	箕浦 慶乃	循環器内科	600,000	補委 文部科学省
冠動脈硬化症のリスク/バイオマーカーになる新規ペプチドの探索	木庭 新治	循環器内科	300,000	補委 文部科学省
腎疾患におけるウロモジュリンの治療効果	伊與田 雅之	腎臓内科	1,200,000	補委 文部科学省
Ca負荷によるTRPVを介した血管石灰化メカニズムの解明と治療法の模索	溝渕 正英	腎臓内科	700,000	補委 文部科学省
妊娠初期の胎盤形成に伴う絨毛細胞のDNAメチル化異常と胎盤機能異常に関する研究	関沢 明彦	産婦人科	1,000,000	補委 文部科学省
先進的胎児治療法・診断法の実用化に向けた研究	関沢 明彦	産婦人科	1,500,000	補委 厚生労働省
胎盤早期剥離の予知に関する研究	長谷川 潤一	産婦人科	1,400,000	補委 文部科学省
次世代シーケンサーによる重症胎児疾患の原因解明と遺伝子ライブラリーの確立	松岡 隆	産婦人科	1,700,000	補委 文部科学省
末梢血を用いた腫瘍由来の染色体不安定性の検出: 新たなバイオマーカーの開発	清水 華子	産婦人科	1,600,000	補委 文部科学省
婦人科悪性腫瘍患者における生殖細胞遺伝子変異のシーケンス解析	飯塚 千祥	産婦人科	1,300,000	補委 文部科学省
発育不全児の神経学的予後を評価しうる血液、超音波、および胎盤病理所見に関する研究	仲村 将光	産婦人科	2,000,000	補委 文部科学省
根治切除術後食道癌のNY-ESO-1抗原発現陽性例に対するIMF-001の多施設共同無作為化	村上 雅彦	消化器・一般外科	2,307,693	補委 日本医療研究開発機構

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高齢化した仮設住宅住民の健康状態に関するコホート研究を通じた予防医療政策の検討	大嶽 浩司	麻酔科	500,000	補委 文部科学省
敗血症性脳症時の睡眠・覚醒異常の解明－視交叉上核とメラトニン動態を探る	福田 悟	麻酔科	20,000	補委 文部科学省
鼻腔内細菌コミュニティが通年性アレルギー性鼻炎に及ぼす影響	渡邊 荘	耳鼻咽喉科	500,000	補委 文部科学省
集束超音波による子宮内胎児低侵襲治療システムの研究開発	土岐 彰	小児外科	600,000	補委 文部科学省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	土岐 彰	小児外科	100,000	補委 厚生労働省
我が国の外科領域におけるハンテクニカル・スキル評価システムの構築	門倉 光隆	呼吸器外科	50,000	補委 文部科学省
ペリオスチンをターゲットとした糖尿病網膜症における血管新生メカニズムの解明	植田 俊彦	眼科	50,000	補委 文部科学省
ペリオスチンをターゲットとした糖尿病網膜症における血管新生メカニズムの解明	齋藤 雄太	眼科	50,000	補委 文部科学省
関節リウマチにおけるフコシル化の機能解析	磯崎 健男	リウマチ・膠原病内科	1,100,000	補委 文部科学省
若年乳癌患者の女性性を支援する患者ナビゲーションシステムの導入と実証研究	中村 清吾	乳腺外科	100,000	補委 文部科学省
わが国における遺伝性乳癌卵巣癌の臨床遺伝学的特徴の解明と遺伝子情報を用いた生命予後の	中村 清吾	乳腺外科	1,200,000	補委 厚生労働省
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベース	中村 清吾	乳腺外科	150,000	補委 厚生労働省
HTLV-I 母子感染予防に関する研究:HTLV-I 抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	板橋 家頭夫	小児科	6,500,000	補委 厚生労働省
地域格差是正を通じた周産期医療体制の将来ビジョン実現に向けた先行研究	板橋 家頭夫	小児科	600,000	補委 厚生労働省
母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究	板橋 家頭夫	小児科	400,000	補委 厚生労働省
低出生体重児の発症機序及び長期予後の解明に関する研究	板橋 家頭夫	小児科	3,875,000	補委 日本医療研究開発機構
新生児外科の健診モデル構築とトランジション可能な長期フォローアップ電子手帳の開発	板橋 家頭夫	小児科	220,000	補委 日本医療研究開発機構
超早産児に対する個別化した強化母乳栄養の臨床的検討	板橋 家頭夫	小児科	1,400,000	補委 文部科学省
難治性てんかんを呈する希少疾患群の遺伝要因と分子病態の解明	加藤 光広	小児科	12,911,340	補委 日本医療研究開発機構
中隔視神経異形成症の実態調査と診断基準・重症度分類の作成に関する研究	加藤 光広	小児科	644,000	補委 厚生労働省
AADC欠損症に対する遺伝子治療の臨床研究	加藤 光広	小児科	4,400,116	補委 日本医療研究開発機構
統合的遺伝子解析システムを用いたヒト発達障害研究	加藤 光広	小児科	1,500,000	補委 日本医療研究開発機構

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	別紙参照			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	廣瀬 敬	呼吸器・アレルギー内科	Association of pharmacokinetics and pharmacogenomics with safety and efficacy of gefitinib in patients with EGFR mutation positive advanced non-small cell lung cancer.	Lung Cancer. 2016 93:69-76
2	水間 紘子	呼吸器・アレルギー内科	Influence of Omalizumab on Allergen-Specific IgE in Patients with Adult Asthma.	Int Arch Allergy Immunol. 2015 168(3):165-72
3	田中 明彦	呼吸器・アレルギー内科	Association between specific IgE to Staphylococcus aureus enterotoxins A and B and asthma control.	Ann Allergy Asthma Immunol. 2015 115(3):191-197.e2
4	本間 哲也	呼吸器・アレルギー内科 / Division of Allergy and Immunology, Department of Medicine, Northwestern University Feinberg School of Medicine	Role of Aspergillus fumigatus in Triggering Protease-Activated Receptor-2 in Airway Epithelial Cells and Skewing the Cells toward a T-helper 2 Bias.	Am J Respir Cell Mol Biol. 2016 54(1):60-70
5	笠間 毅	リウマチ・膠原病内科	Clinical features of neuropsychiatric syndromes in systemic lupus erythematosus and other connective tissue diseases	Clin Med Insights Arthritis Musculoskelet Disord. 2016 18:9:1-8
6	石井 翔	リウマチ・膠原病内科	Influence of renal complications on the efficacy and adverse events of tacrolimus combination therapy in patients with systemic lupus erythematosus (SLE) during a maintenance phase: a single-centre, prospective study.	Lupus Sci Med. 2015 2(1):e000091
7	徳永 剛広	リウマチ・膠原病内科	Sex Differences in the Effects of a Biological Drug for Rheumatoid Arthritis on Depressive State.	Open Rheumatol J. 2015 9:51-6
8	梅村 方裕	リウマチ・膠原病内科	A case of Degos disease: demonstration of C5b-9-mediated vascular injury.	Mod Rheumatol. 2015 25(3):480-3
9	磯崎 健男	リウマチ・膠原病内科	A disintegrin and metalloprotease-10 is correlated with disease activity and mediates monocyte migration and adhesion in rheumatoid arthritis.	Transl Res. 2015 166(3):244-53
10	寺崎 道重	糖尿病・代謝・内分泌内科	Amelioration of Hyperglycemia with a Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor Prevents Macrophage-Driven Atherosclerosis through Macrophage Foam Cell Formation Suppression in Type 1 and Type 2 Diabetic Mice.	PLoS One. 2015 10(11):e0143396
11	伊藤 利香	糖尿病・代謝・内分泌内科	Teneligliptin, a Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor, Improves Early-Phase Insulin Secretion in Drug-Naive Patients with Type 2 Diabetes.	Drugs R D. 2015 15(3):245-51
12	鈴木 泰平	腎臓内科	A case of sporadic medullary cystic kidney disease type 1 (MCKD1) with kidney enlargement complicated by IgA nephropathy.	Pathol Int. 2015 65(7):379-82
13	和田 幸寛	腎臓内科	Light-Chain Deposition Disease Successfully Treated with Bortezomib in an Elderly Patient: A Case Report and Review of the Literature.	Intern Med. 2015 54(22):2893-8
14	和田 幸寛	腎臓内科	Combination therapy of denosumab and calcitriol for a renal transplant recipient with severe bone loss due to therapy resistant hyperparathyroidism	Tohoku J Exp Med. 2016 238(3):205-12
15	小山-中村 真理	腎臓内科	Myocardial SPECT Images in Incident Hemodialysis Patients Without Ischemic Heart Disease.	Ther Apher Dial. 2015 19(6):575-81
16	井芹 健	腎臓内科学部門Renal Unit of Internal Medicine, Hachioji Medical Center, Tokyo Medical University, Japan 3) Yamaguchi's Pathology Laboratory, Japan	Streptococcal infection-related nephritis (SIRN) manifesting membranoproliferative glomerulonephritis type I	Intern Med. 2016 55(6):647-50
17	秋澤 忠男	腎臓内科	Comparison of paricalcitol with maxacalcitol injection in Japanese hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism.	Ther Apher Dial. 2015 19(3):225-34
18	大沼 聖子	腎臓内科	Effects of Long-Term Erythropoiesis-Stimulating Agents on Iron Metabolism in Patients on Hemodialysis.	Ther Apher Dial. 2015 19(6):582-9
19	日原 桂	腎臓内科	Anti-Phospholipase A2 Receptor (PLA2R) Antibody and Glomerular PLA2R Expression in Japanese Patients with Membranous Nephropathy.	PLoS One. 2016 11(6):e0158154
20	平出-笹川 綾子	消化器内科	Increased expression of immuno-inhibitory molecules on peripheral blood lymphocytes may suppress disease progression in autoimmune hepatitis.	Hepato Res. 2015 45(11):1152-4
21	山口 明香	消化器内科	Fecal calprotectin is a clinically relevant biomarker of mucosal healing in patients with quiescent ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol. 2016 31(1):93-8
22	北村 勝哉	消化器内科	0.025-inch vs 0.035-inch guide wires for wire-guided cannulation during endoscopic retrograde cholangiopancreatography: A randomized study.	World J Gastroenterol. 2015 14:21(30):9182-8

23	服部 憲路	血液内科	Early relapse of severe chronic active Epstein-Barr virus infection with posterior reversible encephalopathy syndrome after reduced intensity stem cell transplantation with umbilical cord blood.	Leuk Lymphoma. 2016 15:1-4
24	大西 克実	循環器内科	Daily Dysfunction of Autonomic Regulation Based on Ambulatory Blood Pressure Monitoring in Patients with Neurally Mediated Reflex Syncope.	Pacing Clin Electrophysiol. 2015 38(8):997-1004
25	小貫 龍也	循環器内科	Single center experience in Japanese patients with	J Cardiol. 2015 66(5):395-402
26	茅野 博行	循環器内科	Impact of depression on masked hypertension and variability in home blood pressure in treated hypertensive	Hypertens Res. 2015 38(11):751-7
27	川崎 志郎	循環器内科	Recurrence of atrial fibrillation within three months after pulmonary vein isolation for patients with paroxysmal atrial fibrillation: Analysis using external loop recorder with auto-trigger function.	J Arrhythm. 2015 31(2):88-93
28	千葉 雄太	循環器内科	J-Wave in Patients With Syncope.	Circ J. 2015 79(10):2216-23
29	黒田 岳志	神経内科	Autobiographical age awareness disturbance syndrome in autoimmune limbic encephalitis: two case reports.	BMC Neurol. 2015 15:238
30	杉田 俊寿	神経内科	Breathing is affected by dopamine D2-like receptors in the basolateral amygdala.	Respir Physiol Neurobiol. 2015 Apr;209:23-7
31	村上 秀友	神経内科	Improvement in Language Function Correlates with Gait Improvement in Drug-naïve Parkinson's Disease Patients Taking Dopaminergic Medication.	J Parkinsons Dis. 2016 6(1):209-17
32	森 友紀子	神経内科/内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門	Increased detection of mild cognitive impairment with type 2 diabetes mellitus using the Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment: A pilot study	Neurol Clin Neurosci. 2015 3(3):89-93
33	佐々木 康綱	腫瘍内科/腫瘍分子研究所	Is repeating FOLFIRINOX in the original dosage and treatment schedule tolerable in Japanese patients with	Cancer Sci. 2015 106(8):1100
34	佐々木 康綱	腫瘍内科/腫瘍分子研究所	Phase 1 combination study of eribulin mesylate with trastuzumab for advanced or recurrent human epidermal growth factor receptor 2 positive breast cancer.	Invest New Drugs 2015;33:119-27
35	佐々木 康綱	腫瘍内科/腫瘍分子研究所	Safety, pharmacokinetics and efficacy findings in an open-label, single-arm study of weekly paclitaxel plus lapatinib as first-line therapy for Japanese women with HER2-positive metastatic breast cancer.	Int J Clin Oncol DOI 10.1007/s10147-015-0832-5 Published online 13 May 2015
36	佐々木 康綱	腫瘍内科/腫瘍分子研究所	The SOFT trial: a Phase III study of the dihydropyrimidine dehydrogenase inhibitory fluoropyrimidine S-1 and oxaliplatin (SOX) plus bevacizumab as first-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer.	Future Oncol. 2015;11:1471-1478
37	佐々木 康綱	腫瘍内科/腫瘍分子研究所	Independent validation of the Japanese version of the EORTC QLQ-C15-PAL for patients with advanced cancer.	J Pain Symptom Manage 2015;49:953-959.
38	佐々木 康綱	腫瘍内科/腫瘍分子研究所	Phase II trial of combination therapy of gemcitabine plus anti-angiogenic vaccination of elpamotide in patients with advanced or recurrent biliary tract cancer	Invest New Drugs 2015 33:490-495 DOI 10.1007/s10637-014-0197-z
39	石田 博雄	腫瘍内科	Crizotinib-induced pancreatic pseudocyst: a novel adverse event.	BMJ Case Rep. 2015 8:2015. pii: bcr2015211556
40	小司 久志	感染症内科	More accurate measurement of vancomycin minimum inhibitory concentration indicates poor outcomes in methicillin-resistant Staphylococcus aureus bacteraemia.	Int J Antimicrob Agents. 2015 46(5):532-7
41	小司 久志	感染症内科	Changes in the Distribution of Capsular Serotypes of Streptococcus pneumoniae Isolated from Adult Respiratory Specimens in Japan.	Intern Med. 2015 54(11):1337-41
42	詫間 隆博	感染症内科	Terminal-stage prognostic analysis in candidemia.	J Infect Chemother. 2015 21(5):376-80
43	谷 将之	精神神経科	Anticholinergic Activity and Schizophrenia.	Neurodegener Dis. 2015 15(3):168-74.
44	門倉 光隆	呼吸器外科	Bronchial deformation associated with lobectomy.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2015 21(4):301-4
45	氷室 直哉	呼吸器外科	Video-assisted thoracic surgery for primary myelolipoma of the posterior mediastinum.	J Cardiothorac Surg. 2016 13;11:1
46	氷室 直哉	呼吸器外科	Spontaneous regression of bronchogenic cyst accompanied by pneumonia.	Surg Case Rep. 2015 1(1):106
47	川浦 洋征	心臓血管外科	Effect of the septal adjustment technique for tricuspid annuloplasty with an MC3 ring.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2015 63(5):273-8
48	青木 武士	消化器・一般外科	Routes for virtually guided endoscopic liver resection of subdiaphragmatic liver tumors.	Langenbecks Arch Surg. 2016 401(2):263-73
49	青木 武士	消化器・一般外科	Preoperative Tattooing for Precise and Expedient Localization of Landmark in Laparoscopic Liver Resection.	J Am Coll Surg. 2015 221(5):e97-e101
50	青木 武士	消化器・一般外科	Efficacy and Safety of an Ultrasonically Activated Device for Sealing the Bile Ducts During Liver Resection	Showa Univ J Med Sci. 2016 27(3):185-92
51	青木 武士	消化器・一般外科/神立病院内科/清和記念病院	Development of a New Bioartificial Liver Support System Using a Radial-flow Bioreactor	Showa Univ J Med Sci. 2016 27(3):155-65
52	青木 武士	消化器・一般外科	Three-Dimensional Virtual Endoscopy for Laparoscopic and Thoracoscopic Liver Resection.	J Am Coll Surg. 2015 221(2):e21-6
53	青木 武士	消化器・一般外科	Skeletonization and Isolation of the Glissonian and Venous Branches in Liver Surgery With an Ultrasonic Scalpel Technology.	Int Surg. 2015 100(6):1048-53
54	渡辺 誠	消化器・一般外科	The modified Altmeier procedure for a loop colostomy	Surg Today 2015 45(11):1463-
55	斎藤 祥	消化器・一般外科/解剖学講座 肉眼解剖学部門	The impact of aging on the course of the azygos vein	Okahimas Folia Anatomica Japonica vol.92 No.1 p7-10, 2015.4

56	富岡 幸大	消化器・一般外科/解剖学講座 肉眼解剖学部	Morphometric and quantitative evaluation of the gastroepiploic artery	Okajimas Folia Anat Jpn. 2015 92(2):33-5
57	富岡 幸大	消化器・一般外科/城山病院消化器外科	Clinical Evaluation of Laparoscopic-Assisted Percutaneous Endoscopic Gastrostomy (LAPEG).	Int Surg. 2015 100(6):1144-7
58	Yu Jiwei	消化器・一般外科	Oxygenated static preservation of donation after cardiac death liver grafts improves hepatocyte viability and function	Eur Surg Res. 2016 56(1-2):1-18
59	中村 清吾	乳腺外科	Current Status of the Management of Hereditary Breast and Ovarian Cancer in Asia: First Report by the Asian BRCA Consortium.	Public Health Genomics. 2016 19(1):53-60
60	中村 清吾	乳腺外科	Prevalence and differentiation of hereditary breast and ovarian cancers in Japan.	Breast Cancer. 2015 22(5):462-8
61	千葉 正博	小児外科	Urethral caruncle in a 9-year-old girl: A case report and review of the literature	J. Med Case Rep. 2015 9:71
62	清水 克悦	脳神経外科	Supine No-Retractor Method in Microvascular Decompression for Hemifacial Spasm: Results of 100	J Neurol Surg B Skull Base. 2015 76(3):202-7
63	清水 克悦	脳神経外科	Lateral basal approach with a supine, no-retractor method for microvascular decompression for hemifacial spasm.	Acta Neurochir (Wien). 2015 157(5):803-6
64	石川 紘司	整形外科	Type 1 diabetes patients have lower strength in femoral bone determined by quantitative computed tomography: A cross-sectional study.	J Diabetes Investig. 2015 6(6):726-33
65	江守 永	整形外科	A new method for measuring osteoclast formation by electrical impedance.	J Pharmacol Sci. 2015 128(2):87-91
66	稲垣 克記	整形外科	Distal radius fractures-Design of locking mechanism in plate system and recent surgical procedures.	J Orthop Sci. 2016 21(3):258-62
67	永井 隆士	整形外科	Should Bone Turnover be Suppressed Quickly after Daily Teriparatide Treatment?	Osteoporos Jpn 2015 23(3):360-4
68	永井 隆士	整形外科	The Relationship Between Serum Homocysteine Levels and Vertebral Fractures	Showa Univ J Med Sci. 2016 27(2):103-10
69	藤巻 良昌	整形外科/Department of Orthopaedic Surgery, University of Pittsburgh, Pittsburgh, Pennsylvania, USA Department of	Quantitative In Situ Analysis of the Anterior Cruciate Ligament: Length, Midsubstance Cross-sectional Area, and Insertion Site Areas.	Am J Sports Med. 2016 44(1):118-25
70	河野 達樹	形成外科	Accessory auricles affecting the tragus and cheek occurring with cervical chondrocutaneous branchial remnants: A case report	JPRAS Open 2015 6:20-4
71	森岡 大地	美容外科	Difference in nasolabial features between awake and asleep infants with unilateral cleft lip: Anthropometric measurements using three-dimensional	J Craniomaxillofac Surg. 2015 43(10):2093-9
72	大久保 文雄	美容外科	M-plasty for Full-Thickness Skin Graft Donor Site.	Eplasty. 2015 15:ic54
73	川嶋 章弘	産婦人科	Vitamin C Induces the Reduction of Oxidative Stress and Paradoxically Stimulates the Apoptotic Gene Expression in Extravillous Trophoblasts Derived From First-Trimester	Reprod Sci. 2015 22(7):783-90
74	新垣 達也	産婦人科	Prediction of early and late onset pregnancy induced hypertension using the three-dimensional ultrasound placental volume and uterine artery Doppler findings	Ultrasound Obstet Gynecol. May;45(5):539-43.2015
75	市塚 清健	産婦人科	Diagnosis of a case of Dandy-Walker malformation aided by measurement of the brainstem-vermis angle at 14 weeks gestation.	J Obstet Gynaecol Res. May;41(5):790-3. 2015
76	川嶋 章弘	産婦人科	Maternal Smoking History Enhances the Expression of Placental Growth Factor in Invasive Trophoblasts at Early Gestation Despite Cessation of Smoking.	PLoS One. 2015 Jul 27;10(7)
77	鈴木 真	産婦人科	Prevalence of human T-cell leukemia virus type 1 carrier in Japanese pregnant women in 2013.	J Clin Med Res. 2015 Jun;7(6):499-500
78	鈴木 真	産婦人科	Current Status of the Screening of Chlamydia trachomatis Infection Among Japanese Pregnant Women.	J Clin Med Res. 2015 Jul;7(7):582-4.
79	竹中 慎	産婦人科	Prediction of Fetal Growth Restriction by Analyzing the Messenger RNAs of Angiogenic Factor in the Plasma of Pregnant Women	Reprod Sci. 2015 Jun;22(6):743-9.
80	仲村 将光	産婦人科	Uterine rupture at 10 weeks of gestation after laparoscopic myomectomy	J Med Ultrason (2001). 2016 Jan;43(1):133-6.
81	長谷川 潤一	産婦人科	Cases of death due to serious group A streptococcal toxic shock syndrome in pregnant females in Japan.	Arch Gynecol Obstet. Jan;291(1):5-7.2015.
82	長谷川 潤一	産婦人科	The use of balloons for uterine cervical ripening is associated with an increased risk of umbilical cord prolapse: population based questionnaire survey in Japan.	BMC Pregnancy Childbirth. 2015 Jan 22;15:4.
83	長谷川 潤一	産婦人科	Uterine rupture after the uterine fundal pressure maneuver	J Perinat Med. Nov 1;43(6):785-8.2015
84	長谷川 潤一	産婦人科	Management of vasa previa during pregnancy	J Perinat Med. Nov 1;43(6):783-4.2015
85	仲村 将光	産婦人科	Repeated Measurement of Crown-Rump Length at 9 and 11-13 Weeks' Gestation: Association with Adverse Pregnancy Outcome.	Fetal Diagn Ther. 2015 38(4):262-8
86	長谷川 潤一	産婦人科	Clinical risk factors for poor neonatal outcomes in umbilical cord prolapse.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2016 29(10):1652-6

87	長谷川 潤一	産婦人科	Descendent migration in vasa previa.	J Med Ultrason (2001). 2015 42(2):295-6
88	長谷川 潤一	産婦人科	How do the trends in the prenatal diagnosis of aneuploidy change after a non-invasive prenatal test becomes available? A Japanese single center study.	J Med Ultrason (2001). 2015 42(2):195-8
89	長谷川 潤一	産婦人科	Maternal Death Due to Stroke Associated With Pregnancy-Induced Hypertension.	Circ J. 2015 79(8):1835-40
90	長谷川 潤一	産婦人科	Management of vasa previa during pregnancy	J Perinat Med. 2015
91	長谷川 潤一	産婦人科	Uterine rupture after the uterine fundal pressure maneuver	J Perinat Med. 2015
92	田内 麻依子	産婦人科	A case of uterine rupture diagnosed based on routine focused assessment with sonography for obstetrics.	J Med Ultrason (2001). 2016 43(1):129-31
93	大場 智洋	産婦人科	Reference values of focused assessment with sonography for obstetrics (FASO) in low-risk population.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2016 22:1-5
94	瀧田 寛子	産婦人科	Usefulness of antenatal ultrasound fetal morphological assessments in the first and second trimester: a study at a single Japanese university hospital.	J Med Ultrason (2001). 2016 43(1):57-62
95	竹中 慎	産婦人科	Prediction of Fetal Growth Restriction by Analyzing the Messenger RNAs of Angiogenic Factor in the Plasma of Pregnant Women.	Reprod Sci. 2015 22(6):743-9
96	徳中 真由美	産婦人科	Decidual polyps are associated with preterm delivery in cases of attempted uterine cervical polypectomy during the first and second trimester.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2015 28(9):1061-3
97	川嶋 章弘	産婦人科	Maternal Smoking History Enhances the Expression of Placental Growth Factor in Invasive Trophoblasts at Early Gestation Despite Cessation of Smoking.	PLoS One. 2015 10(7):e0134181
98	岡田 義之	産婦人科	Uterine rupture at 10 weeks of gestation after laparoscopic myomectomy.	J Med Ultrason (2001). 2016 43(1):133-6
99	Shah Syed Bilal Hussain	産婦人科	Two- and three-dimensional sonographic diagnosis of multiple pregnancies(sextuplets)	J Med Ultrason. 2015 42(3):441-3
100	中野有也	小児科	Longitudinal changes in adiponectin multimer levels in preterm infants.	Early Hum Dev. 2016 Apr;95:29-33. doi: 10.1016/j.earlhumdev.2016.01.022. Epub 2016 Feb 27.
101	土橋 一重	小児科	Evaluation of Obesity in School-Age Children.	J Atheroscler Thromb. 2016 23(1):32-8
102	土橋 一重	小児科	Non-HDL-C Levels and the Criteria in Japanese Children.	J Atheroscler Thromb. 2015 23:22(7):656-7
103	日比野 聡	小児科	Proteinuria caused by glomerular hypertension during adolescence associated with extremely premature birth: a report of two cases.	Pediatr Nephrol. 2015 30(10):1889-92
104	阿部 祥英	小児科	Validation of Cefazolin as Initial Antibiotic for First Upper Urinary Tract Infection in Children.	Glob Pediatr Health. 2016 8:3:2333794X15625297.
105	山川 琢司	小児科	Mortality and morbidity risks vary with birth weight standard deviation score in growth restricted extremely preterm	Early Hum Dev. 2016 92:7-11
106	古田 厚子	耳鼻咽喉科	Suppressive activity of macrolide antibiotics on periostin production from nasal cells in vitro and in vivo.	Chronic Diseases-International 2(1) : id1012, 2015
107	渡邊 莊	耳鼻咽喉科	Sharing and keeping up with new knowledge among the Asian rhinologists.	Asian Rhinology Journal 2: 1-2, 2015.
108	野村 恭也	耳鼻咽喉科	Hydrops of the organ of corti	Acta Otolaryngol.31:1-3,2016
109	木村 百合香	耳鼻咽喉科	Histopathologic Findings of an Aberrant Internal Carotid Artery in the Temporal Bone With Fatal Complication.	Otol Neurotol. 36(9):e150-2, 2015
110	木村 百合香	耳鼻咽喉科	An aberrant carotid artery in the temporal bone with fatal complication.	Auris Nasus Larynx. Epub Nov 19, 2015.
111	江川 峻哉	頭頸部腫瘍センター/口腔外科学講座 口腔腫瘍外科学部門/耳鼻咽喉科学講座/口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門	Cervical Sympathetic Chain Schwannomas	Showa Univ J Med Sci. 2016 27(2):117-23
112	末木 博彦	皮膚科	A case of subepidermal blistering disease with autoantibodies to multiple laminin subunits who developed later autoantibodies to alpha-5 chain of type IV collagen associated with membranous glomerulonephropathy.	Acta Derm Venereol. 2015 95(7):826-9
113	渡辺 秀晃	皮膚科	Toxic epidermal necrolysis caused by acetaminophen featuring almost 100% skin detachment: Acetaminophen is associated with a risk of severe cutaneous adverse	J Dermatol. 2016 43(3):321-4
114	神山泰介	皮膚科	Bullous eosinophilic cellulitis with subcorneal pustules.	Indian J Dermatol Venereol Leprol. 81(3): 301-303, 2015
115	杉山 美紀子	皮膚科/形成外科学講座 形成外科学部門/内科学講座 循環器内科部門	Morphological Alterations of the Eccrine Sweat Apparatus in Amputated Feet from Diabetes Mellitus Patients	Showa Univ J Med Sci. 2016 27(2):93-102
116	保坂 憲史	放射線科	Investigating of the Usefulness of Multidetector-row Computed Tomography for Diagnosing Abdominal Visceral	Showa Univ J Med Sci. 2016 27(2):215-22
117	宮上 修	放射線科	Chemical-shift Magnetic Resonance Imaging Performed after Chemoembolization of Hepatocellular Carcinoma	Showa Univ J Med Sci. 2015 27(4):261-269
118	扇谷 芳光	放射線科	MR Imaging of Fetuses to Evaluate Placental Insufficiency.	Magn Reson Med Sci. 2016 15(2):212-9
119	新谷 暁史	放射線治療科	Comparison of CT Urography and MRI in Bladder Cancer Detection	Showa Univ J Med Sci. 2016 28(1):55-62

120	片岡 華恵	麻醉科	Fluorescent imaging of endothelial glycocalyx layer with wheat germ agglutinin using intravital microscopy	Microsc Res Tech. 2016 79(1):31-7
121	善山 栄俊	麻醉科	A Posterior TAP Block Provides More Effective Analgesia Than a Lateral TAP Block in Patients Undergoing Laparoscopic Gynecologic Surgery: A Retrospective Study.	Anesthesiol Res Pract. 2016;2016:4598583
122	田澤 咲子	臨床病理診断学講座	CD200 Expression on Plasma Cell Myeloma Cells is Associated with the Efficacies of Bortezomib, Lenalidomide and Thalidomide.	J Clin Exp Hematop. 2015 55(3):121-6

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ①審査機関（委員会）の審査範囲及び申請書類提出窓口について ②審査申請のための事前準備について ③審査申請に必要とされる書類について ④申請書類の作成について（参照すべき指針を含む） ⑤申請から審査・承認までの流れについて ⑥申請から研究実施までのフローチャート ⑦研究計画の経過報告及び終了報告について ⑧重篤な有害事象及び不具合への対応について ⑨研究計画に伴って発生した苦情の窓口について ⑩医学部医の倫理委委員会に関する問い合わせ先について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 規定の主な内容・ 利益相反の定義について・ 利益相反マネジメントの対象者について・ 利益相反マネジメントの対象範囲について・ 利益相反委員会について・ 審議について・ 判定の通知について・ 異議の申立について・ 情報の保護について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年20～30回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容 <p>臨床研究を実施するために必要な倫理指針および知識等について教育を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none">① 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の制定について② 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の要点について③ 臨床研究のモニタリング及び監査の実施と手順書の説明④ 昭和大学8病院と臨床薬理研究所における治験への取り組みについて	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期臨床研修終了後、各科において本学の特色である「チーム医療」を活かした専門的な研修を行っている。
とくに内科部門においては、内科研修医制度を独自に制度化している。初期臨床研医修終了後の3年目に内科系診療科を目指す者は、1年間内科学講座に所属して日本内科学会の認定内科医資格を取得出来るように資格取得条件としている18症例すべての内容を各領域の診療科長から評価してもらっている。症例不足分野に関しては必要な診療科でのローテートを義務付けており、初期臨床研修期間を含めた3年間で内科領域に精通し、なおかつ専門分野の知識を有した人材の育成に努めている。

2 研修の実績

研修医の人数	127
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
相良 博典	呼吸器・アレルギー内科	教授	28	
小林 洋一	リウマチ・膠原病内科(代行)	教授	38	
平野 勉	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	35	
柴田 孝則	腎臓内科	教授	33	
吉田 仁	消化器内科	教授	28	
中牧 剛	血液内科	教授(員外)	34	
小林 洋一	循環器内科	教授	38	
小野 賢二郎	神経内科	教授(員外)	18	
佐々木 康綱	腫瘍内科	教授	36	
斎藤 司	総合内科(ER)	准教授	30	
二木 芳人	感染症内科	教授	39	
樋口 比登実	緩和医療科	教授(員外)	33	
岩波 明	精神神経科	教授	30	
鈴木 隆	呼吸器外科	教授	41	
青木 淳	心臓血管外科	教授	31	
村上 雅彦	消化器・一般外科	教授	34	
中村 清吾	乳腺外科	教授	33	
土岐 彰	小児外科	教授	37	
水谷 徹	脳神経外科	教授	31	
稲垣 克記	整形外科	教授	29	
板橋 家頭夫	リハビリテーション科(代行)	教授	36	
吉本 信也	形成外科	教授	37	
大久保 文雄	美容外科	教授	33	
関沢 明彦	産婦人科	教授	26	
高橋 春男	眼科	教授	37	
田角 勝	小児科	教授(員外)	38	
小林 一女	耳鼻咽喉科	教授	33	
末木 博彦	皮膚科	教授	35	

小川 良雄	泌尿器科	教授	33
後閑 武彦	放射線科	教授	34
加賀美 芳和	放射線治療科	教授	37
大嶽 浩司	麻酔科	教授	18
土肥 謙二	救急医学科	教授	30
瀧本 雅文	臨床病理診断科	教授	32
板橋 家頭夫	東洋医学科(代行)	教授	36
岡松 良昌	歯科・口腔外科	助教	23

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1. ナースのための抗菌薬基礎知識
2. 看護師中途採用者感染管理研修
3. ナースヘルパー研修
4. 医療安全講習会
5. BLS実践講習会
6. 抗菌薬スキルアップセミナー
7. 手洗いキャンペーン
8. 委託職員感染対策講習会
9. 放射線業務従事者・放射線診療従事者教育訓練
10. 医療機器ローカル講習会
11. 臨床研修医のための医療安全：医薬品の安全管理と適正使用
12. 新人看護師研修：医薬品安全管理の知識
13. 新人看護師研修：医療機器安全管理の知識
14. 医療機器安全使用のための定期講習会
15. 人工呼吸器実践講習会
16. がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
17. がん医療研究会
18. がんセミナー
19. NST勉強会
20. 血液浄化セミナー

・研修の期間・実施回数

1. 1日・年1回
2. 1日・年3回
3. 1日・年5回
4. 1日・年7回
5. 1日・年9回
6. 1日・年6回
7. 1日・年5回
8. 1日・年2回
9. 1日・年1回
10. 1日・年2回
11. 1日・年1回
12. 1日・年1回
13. 1日・年2回
14. 1日・年2回
15. 1日・年5回
16. 2日・年2回
17. 1日・年1回
18. 1日・年5回
19. 1日・年9回
20. 1日・年3回

・研修の参加人数

1. 54名
2. 36名
3. 100名
4. 1回につき400名～900名前後
5. 180名
6. 45名
7. 320名
8. 180名
9. 204名
10. 77名
11. 36名
12. 133名
13. 250名
14. 164名
15. 36名
16. 55名
17. 82名
18. 212名
19. 217名
20. 99名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1. 医療安全講習会

・研修の期間・実施回数

1. 1日・年7回

・研修の参加人数

1. 1回につき400名～900名前後

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

1. がん看護専門看護師
2. 糖尿病認定看護師
3. サードレベル
4. 母性看護専門看護師
5. 乳がん看護認定看護師
6. 新生児集中ケア認定看護師

・研修の期間・実施回数

1. 2週間・年2回（各1名）
2週間・年1回（2名合同）
2. 4週間・年1回
3. 1日間・年1回
4. 2週間・年1回
5. 6週間・年1回
6. 4週間・年1回

・研修の参加人数

1. 2名
2. 3名
3. 1名
4. 1名
5. 2名
6. 1名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	診療録管理室長 小林 洋一
管理担当者氏名	医事課 診療録管理係 藤木 誠一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課	病院日誌は各年度毎に保管。それ以外は1患者1ファイル及び1ジャケットまたは、1診療録単位に診療記録をファイリングし外来・入院・X線写真を区分して保管している。
		各科診療日誌	管理課	
		処方せん	診療録管理室	
		手術記録	診療録管理室	
		看護記録	診療録管理室	
		検査所見記録	診療録管理室	
		エックス線写真	診療録管理室	
		紹介状	診療録管理室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	管理課	
		閲覧実績	診療録管理室	
		紹介患者に対する医療提供の実績	診療録管理室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬局	
		規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門			
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門			
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条	院内感染対策のための指針の策定状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管
	第十一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門
	第二十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門
	第二十二号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門
	第三十号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門および薬局
	第三十一号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門および薬局
	第三十二号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部門および薬局
	第三十三号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門および薬局
	第三十四号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門および臨床工学室
	第三十五号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門および臨床工学室
	第三十六号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部門および臨床工学室
第三十七号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門および臨床工学室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部門
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部門および薬局
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部門
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部門
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門および薬局
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部門
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部門
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部門
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部門
		職員研修の実施状況	医療安全管理部門
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部門		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	診療録管理室長 小林 洋一	
閲覧担当者氏名	医事課診療録管理係 藤木 誠一	
閲覧の求めに応じる場所	診療録管理室他	
閲覧の手続の概要 病院長宛の依頼文書にもとづき、管理課から診療録管理室に必要とする診療記録の準備を依頼する。準備後、管理課から依頼者へ手続き等の連絡をおこない閲覧を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	3件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 2件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 医療安全に関する基本的な考え方2) 安全管理の体制確保3) 安全管理担当者の配置4) 医療事故等の院内報告制度5) 職員研修の実施6) 医療安全管理対策マニュアル7) 患者からの相談への対応8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針9) 医療安全情報の非開示10) 医療安全体制の監査	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (有・無)・ 開催状況：年 14 回・ 活動の主な内容：医療事故等の防止、安全管理体制の確保	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">4月20日 テーマ「病院長からのメッセージ」5月12日 テーマ「ポケットマニュアル活用法」7月29日 テーマ「医療機器のインシデント事例とその対策」9月16日 テーマ「医薬品の安全管理」9月30日 テーマ「医療事故調査制度」11月12日 テーマ「苦情対応について」1月29日 テーマ「酸素ボンベの取り扱いと点検について/個人情報」	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<p>インシデント事例は、テーマ別分科会において横断的に編成された分科会委員（各部署リスクマネージャー）により検討され、分析・改善策について MSM 委員会へ報告される。MSM 委員会での報告に基づいて医療事故の防止対策業務改善の検討及び推進を図る。</p><p>アクシデントについては、医療安全・管理対策委員会において問題点の分析と対応及び改善策を検討する。問題点の分析及び改善策は、各種委員会で報告する。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 基本的な考え方・ 病院感染防止の体制確保・ 病院感染防止の体制確保・ 病院感染等の院内報告制度・ 病院感染等の発生時の対応・ 感染リンクドクター、感染リンクナースの配置・ 職員研修の実施・ その他感染防止対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療関連感染に関する対策の決定と原因分析、調査<ul style="list-style-type: none">・ 職業感染予防に関連した安全器材や個人防護具の選定、ワクチンプログラムの推進、接触者検診の検討・ 病院内で発生した感染症と薬剤耐性菌、職員の針刺し事例について報告・ ICT環境ラウンドとAST（抗菌薬適正使用支援チーム）ラウンド実施と改善状況の報告・ 広域抗菌薬（抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬など）薬使用状況の報告・ ICT調査事例や改善支援事例の報告・ 講習会の開催案内と実施状況（出席状況）の報告・ マニュアル、指針、委員会規定の見直しと改訂について検討	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 病院長からのメッセージ2) ポケットマニュアル活用法3) 結核のあれこれ、何それ？/当院におけるカルバペネム耐性腸内細菌アウトブレイクに対する現状と対応4) クロストリジウム・ディフィシルと環境整備について/抗菌薬の使用状況5) 手指衛生遵守率の報告6) 季節性インフルエンザと感染性胃腸炎について7) 院内感染対策について多剤耐性アシネトバクター・AST活動等	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>医師や看護師、病院内で勤務する者は、患者や職員の感染症発生時または感染症が疑われる場合、感染管理部門に連絡する。感染管理部門は情報収集と感染予防策の確認や指導、検討を行い、拡大予防と原因の調査を行う。これらの情報をまとめ、毎月院内感染防止対策委員会で事例と対策の実施状況を報告し、情報共有を行う。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>サーベイランスを実施し感染症や薬剤耐性菌の検出率、手指衛生の遵守率、手指消毒薬の使用状況のベースラインを把握する。感染症発生の早期発見と感染予防策の改善に役立てている。また、定期的に環境ラウンドや抗菌薬適正使用ラウンドを行い、改善支援や評価とフィードバックを継続している。</p>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容： 2016/4/2臨床研修医のための医療安全：医薬品の安全管理と適正使用（36名） 2016/4/8新人看護師研修：医薬品安全管理の知識（133名） 2016/5/10医療安全講習会：医薬品の安全使用part1（910名） 2016/8/24医療安全講習会：医薬品の安全使用part2（633名）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有)・無) ・ 業務の主な内容： 第1章 教育・研修 第2章 事故発生時の対応 第3章 外来および入院患者への医薬品の使用と管理 第4章 医薬品情報の収集・管理・提供 第5章 医薬品の採用 第6章 医薬品の管理 第7章 当院における医薬品の適正使用の管理 第8章 薬剤管理指導 第9章 他施設との連携 第10章 放射性医薬品の安全管理・安全使用 第11章 院内製剤の調製および使用に関する事項 ・ 業務の実施状況：毎月、薬剤部セーフティマネージャーと医薬品安全管理責任者が上記業務内容を巡視し確認。管理者巡視に同行し実施状況の確認をしている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 厚生労働省ホームページ、PMDAメディナビ、製薬企業MR、卸業者またはDSU等より収集。 医薬品情報を吟味し、昭和大学医薬品集へのUpdate、またDIニュース等で適宜情報発信。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： テーマ別分科会で誤薬・誤注射の対策検討。 薬局・病棟等でのヒヤリ・ハット事例の収集・分析と対策の実施。例えば、小児の処方では、成人量の上限を超えると医師入力画面にオーダ警告が出るようにした。また、観血的操作時に休薬が必要な医薬品については、持参薬確認時点で休薬情報を持参薬確認票に自動表示するようにした。	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニタの安全使用のための研修を行っている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 重要8品目(リニアック、RALS、閉鎖式保育器、γセルエラン、除細動器、血液浄化装置、人工心肺装置、人工呼吸器)および、シリンジポンプ、輸液ポンプの保守管理を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 毎月、医療機器安全NEWSを発行し、PMDAより報告される医療機器の回収・改修情報や院内における重要管理医療機器の紹介、医療機器の使用法、医療機器の取り扱いなど注意事項のお知らせを行っている。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>毎週、医療安全管理部門員全員が集まり、合併症報告やインシデント報告、医薬品の有害情報、医療機器の不具合等の情報共有を行い、医療安全管理対策委員会の議題について議論し、医療安全管理部門の進むべき方向性を医療安全管理責任者が指示している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (1 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>DI 担当薬剤師による医薬品情報の整理や外来および病棟担当薬剤師による医薬品情報の周知を行っている。また、医薬品安全管理責任者による指導・確認体制を整備している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p> <p>・ 担当者の指名の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)</p> <p>・ 規程の主な内容 :</p> <p>「説明と同意についての指針」</p> <ol style="list-style-type: none">1) 患者・家族の意向確認2) 治療・ケアの選択肢による効果と危険性3) 説明場所4) 説明者の確認5) 説明者への注意事項6) 説明事項7) 診療録への記載	

8) 説明・同意書の記載順 9) 説明と同意ができない場合 10) 未成年者に対する説明 11) 説明と同意の文書について 12) 繰り返し行う侵襲を伴う検査・処置の同意書のあり方	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
・活動の主な内容： 1) 診療録管理に従事する実務者を統括する。 2) 診療録管理の業務を実施する上で問題点などが発生した場合、実務者と協同して解決策を導き、周知を行う。 3) 診療録の質的監査を実施するうえでの中心的役割を担い、記載の向上に向けて指導を行う。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：専従（ 2 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 15 ）名 うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 6 ）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名 ・活動の主な内容： <p style="color: red; text-align: center;">※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p> 医療安全管理部門の専従者として看護師 2 名配置している。医師、薬剤師については経過措置の適応を受けている。 医療安全管理者の活動内容 1) 事故の防止に関する業務 ①インシデントレポートの収集、分析及び管理に関すること ②医療事故防止策の立案、実施、評価に関すること ③マニュアル及びガイドラインの策定等に関すること ④現場の実施点検等に関すること ⑤医療安全管理に関する調査に関すること 2) 重大な、または部門を横断する医療事故発生後の対応と、調整等に関する業務 ①発生状況（事実・背景・要因）の調査と報告に関すること ②患者や家族への説明や発生時の対応状況についての確認と指導に関すること ③当該部署のセーフティマネージャー等への支援 ④当該事故関係医療従事者を支援すること（精神的サポート） 3) 医療安全に関する教育・啓発等に関する業務	

- ①職員研修
- ②セーフティマネジャー研修
- ③学生教育
- ④講演会の企画・運営
- ⑤広報活動

4) ネットワークに関する業務

- ①医薬品、医療機器メーカー及び行政への提言等に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・ 規程の主な内容 :
 - 1) 高難度医療技術の新規導入に関する適否等の評価および管理
 - 2) 高難度医療技術の新規申請窓口業務
 - 3) 高難度医療技術を適用した全症例の管理
 - 4) 高難度新規医療技術管理委員会等の資料および議事録の作成と管理
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・ 規程の主な内容 :
 - ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
 - ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況	有・無
--------------	-----

※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

- ・ 監査委員会の開催状況：年 回
- ・ 活動の主な内容：

- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・ 委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 420 件（H27.07～H28.03）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 55 件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 1) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集、分析、企画・立案、実行及び評価に関すること
 - 2) 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のための指針の整備に関すること
 - 3) 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のための職員研修に関すること
 - 4) 医療事故についての調査を行い、原因究明及び適切な対応に関すること
 - 5) 医療事故等の院内報告制度の整備に関すること
 - 6) 医療事故調査制度に係る対象事例かの判断に関すること
 - 7) その他、医療事故に関するすべて（訴訟も含む）の事項を検討し、適切かつ速やかな対策を検討すること

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（）（病院名：順天堂大学医学部附属順天堂医院）・無
（病院名：自治医科大学附属病院）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（）（病院名：順天堂大学医学部附属順天堂医院）・無
（病院名：自治医科大学附属病院）
- ・技術的助言の実施状況

※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

10 月以降にこれから実施する予定である。現在、双方に日程調整中。

<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<p>・体制の確保状況</p> <p>1) 電話相談及び窓口相談（総合相談窓口）</p> <p>2) 投書箱</p> <p>相談内容をアセスメントし、一時対応は受付部署で行うが、必要に応じて該当する各部署と連携し解決する。その後、関係する部署の所属長や医療安全管理部門長、病院長等院内各責任者へ報告する。また、内容によっては、各種委員会、テーマ別分科会、MSM 委員会にて検討し対応策の検討を行っている。</p>
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<p>・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・<input type="radio"/>無）</p> <p>・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・<input type="radio"/>無）</p> <p>・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・<input type="radio"/>無）</p>
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況</p> <p>※経過措置の適用により、様式 8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p>
<p>⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況</p> <p>【管理者】 平成 28 年 8 月 18 日 日本病院会主催のセミナー参加</p> <p>【医療安全管理責任者】 平成 28 年 10 月 3 日 東京地方裁判所主催のシンポジウム参加</p> <p>【医薬品安全管理責任者】 平成 28 年 7 月 15 日 日本病院薬剤師会主催の講習会参加</p> <p>【医療機器安全管理責任者】 平成 28 年 7 月 14 日 国公立大学附属病院医療安全セミナー参加</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・病院機能評価 財団法人日本医療機能評価機構 (救急医療機能含む) 2015年3月6日認定 ・臨床研修医評価 NPO法人卒後臨床研修評価機構 2015年1月1日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 HPに記載 (http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html)。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 内科医師、外科医師、薬剤師、看護師が診療にあたるよう「センター化」を行い、複数の診療科をはじめ、多くの医療従事者が一人の患者に関わることで「チーム医療」を実現している。	

(様式第 8)

28 昭大病発第 10 号
平成 28 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人昭和大学
理事長 小口 勝司 (印)

昭和大学病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由
平成 26 年度実績 ・紹介率 70.3% ・逆紹介率 38.3%	平成 27 年度実績 ・紹介率 70.6% ・逆紹介率 53.5%
患者自身が大病院志向であることや大学病院の医師を「かかりつけ医」と思い込んでいることから、逆紹介に対する抵抗があると考え。そのため、逆紹介に関する掲示の強化などを実施したが不十分であり、患者に対して十分な理解が得られなかったと考える。 また、医療従事者についても「紹介元に逆紹介する」という基本ルールの解釈が統一されていないことや認識していない場合が多数見受けられた。さらに地域医療機関と役割分担や機能連携の重要性に対する理解についても浸透していないことや指導できていないことが理由として挙げられる。	

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第 8 として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

--

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。

(様式第 8)

28 昭大病発第 8 号
平成 28 年 9 月 6 日

厚生労働大臣 殿

学校法人昭和大学
開設者名 小口 勝司 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 8 月 23 日付けで副院長を配置し整備済み (管理会議)

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

- ① D I 担当薬剤師による医薬品情報の整理、外来および病棟担当薬剤師による医薬品情報の周知、医薬品安全管理責任者による指導・確認体制は整備済み。
- ② 適応外、禁忌等の処方に係る確認は、医薬品安全管理責任者を含む専門の審査部門や委員会を平成 28 年 9 月末までに設置予定

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 8 月 23 日付けで整備済み (管理会議)

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

平成 16 年 7 月 1 日付けで整備済み

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 8 月 23 日付けで整備済み（管理会議）

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

平成 27 年 6 月より全死亡事例等の報告制度は整備済み
平成 28 年 7 月 21 日付けで業務内容を部門内規に追加済み

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

平成 26 年 4 月 1 日付けで整備済み
平成 28 年 7 月 21 日付けで業務内容を部門内規に追加済み

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

医療安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況確認は医療安全管理者による院内巡視を実施しており整備済み

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

平成 28 年 7 月 21 日付で整備済み

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 28 年 7 月 21 日付で整備済み

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

平成 28 年 9 月末までに医薬品及び医療機器に関する適否等を決定する部門を検討

平成 28 年 10 月末までに内規等の整備を予定

平成 28 年 12 月末までに部門設置予定

医薬品に関しては薬事委員会事務局、医療機器に関しては臨床工学室が行う予定だったが、先日行われた医療法第 25 条第 3 項の規定に基づく立入り検査にて再度検討するようご指導頂いたため検討している。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 28 年 10 末までに内規等の整備を予定

13. 監査委員会を設置するための予定措置

平成 28 年 7 月 20 日 監査委員会の内規（案）を作成済み
平成 28 年 12 月の理事会にて審議し委員を人選する予定

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

私立医科大学協会が中心になり既に整備済み
平成 28 年 10 月 順天堂大学医学部附属順天堂医院（予定）
平成 28 年 11 月 自治医科大学附属病院（予定）

15. 職員研修を実施するための予定措置

平成 29 年 1 月 経過措置がある項目についての整備の目処が立った時点で e-ラーニングを用いて周知予定

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

【管理者】	平成 28 年 8 月 18 日 日本病院会主催のセミナー参加済み
【医療安全管理責任者】	平成 28 年 10 月 3 日 東京地方裁判所主催のシンポジウムに参加予定
【医薬品安全管理責任者】	平成 28 年 7 月 15 日 日本病院薬剤師会主催の講習会に参加済み
【医療機器安全管理責任者】	平成 28 年 7 月 14 日 国公立大学附属病院医療安全セミナーに参加済み

17. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員	：専従（ 2 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 15 ）名
うち医師	：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 6 ）名
うち薬剤師	：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名
うち看護師	：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

看護師については整備済み

医師、薬剤師の専従者について現在選定中

平成 30 年 3 月 31 日までに就業時間の 8 割以上を当該業務に従事する者を医師 1 名、
薬剤師 1 名を配置する予定